



前田寛治《棟梁の家族》1928年 油彩・カンヴァス 鳥取県立博物館蔵

企画展 平成28年4月2日(土)～5月22日(日)

2 昭和の洋画を切り拓いた若き情熱 一九三〇年協会から独立へ

企画展 平成28年7月23日(土)～8月28日(日)

3 宇宙への挑戦～未知への扉をひらくとき～

企画展 平成28年10月1日(土)～11月13日(日)

4 日本におけるキュビズム —ピカソ・インパクト

4 シリーズ「学校と博物館をつなぐ」⑥ 県内学校の博物館利用状況（平成26年度）

5 [自然] コラム 歯は語る：哺乳類の頭骨標本

6 [人文] コラム データベース「鳥取県の定点写真」

資料紹介 銅剣に描かれた「サメ」

7 [美術] レポート 展示室で鑑賞授業

レポート 県立美術館整備に向けて

8 イベント案内：前期(4～9月)

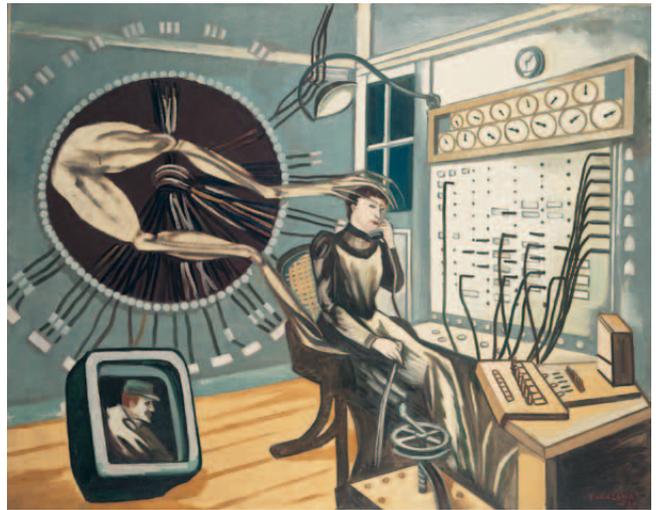
昭和の洋画を切り拓いた若き情熱 一九三〇年協会から独立へ

当館では開館以来、鳥取県出身の前田寛治を主要な洋画家のひとりとして展覧会を幾度となく開催し、画家の足跡や作品の魅力を紹介するとともに、積極的に作品を収集してきました。そして、前田寛治の生誕120年となる今年は、前田が活躍した舞台の一つである「一九三〇年協会」というグループと、同会を母体にした「独立美術協会」の作家たちの作品を紹介する展覧会を開催します。

1920年代、多くの若手画家が大成を夢見てヨーロッパへの留学を経験しました。「一九三〇年協会」は同時期にパリに留学していた前田寛治、里見勝蔵、木下孝則、佐伯祐三、小島善太郎により滞欧以後の作品発表を目的として1926(大正15)年に結成されました。「一九三〇年協会」という少し変わった会の名称は、フランスのバルビゾンで制作していたコロー、ルソー、ミレーらの「1830年派」のように、愛と尊敬と芸術によって団結するグループとして、間もなく迎える1930(昭和5)年には立派な新運動を完成させようと名付けられました。彼らの中には共通した芸術についての目的や理念、主義主張が存在していたわけではなく、友情によって結束した団体でした。第1回

展こそわずか5人の作品発表の場でしたが、その後パリから戻った仲間が次々と会員に加わり、一般の作品も公募するようになると、組織は急速に拡大し、旧態依然の画風を展開する帝展や二科展などの既存の絵画団体に対する新しい時代の新勢力として注目を集め、洋画界に大きな影響を与えました。

しかし、佐伯の客死や里見の脱会、木下の渡欧により主要メンバーを欠き弱体化しはじめた同協会は、1930年の第5回記念展の後、前田が不帰の人となったことにより足並みが乱れます。そうしたなか、同年11月に同協会を発展させたかたちで、二科会の里見勝蔵、児島善三郎、林重義、林武、川口軌外、小島善太郎、中山巍、鈴木亜夫、鈴木保徳、さらに春陽会の三岸好太郎、国画会の高島達四郎、フランスか



福沢一郎《寡婦と誘惑》1930年 油彩・カンヴァス
富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館蔵

ら帰国した伊藤廉、福沢一郎、清水登之により「既存の団体からの絶縁」、「新時代の美術の確立」の宣言のもと「独立美術協会」が創立され、日本を代表する美術団体のひとつとして画壇を牽引していきます。

この度の展覧会では、2016年に「一九三〇年協会」が創立から90周年の節目を迎えるのを機に、昭和の洋画界に旋風を起こした二つの美術団体の活動に改めて注目し、一時代を築いた寵児たちの作品を一堂に集めてご紹介いたします。

本県ではかつて鳥取市桂見に建設が予定されていた県立美術館の開設準備室時代に、前田寛治と交遊のあった本展出品作家の作品を積極的に収集してきた経緯があり、それらは現在当館の洋画コレクションの核となっています。本展は、これら当館の所蔵作品を纏まった形で紹介する初めての機会であり、全国から借用した作品と共に陳列いたします。

是非この機会に前田寛治の魅力を再認識していただくと共に、一世紀近く前に新しい絵画運動を展開した若き画家たちの情熱が溢れる作品の数々をお楽しみください。

(美術振興課 林野 雅人)



佐伯祐三《扉》1928年 油彩・カンヴァス
田辺市立美術館蔵



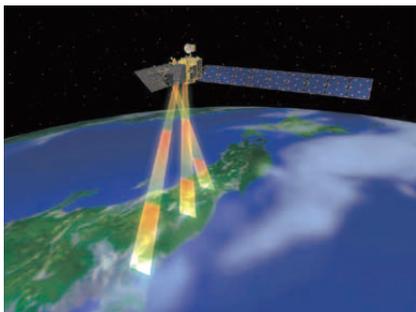
川口軌外《ボヘミアン》1928年 油彩・カンヴァス
和歌山県立近代美術館蔵

宇宙への挑戦～未知への扉をひらくとき～

兵庫県浜坂の産んだ偉大な登山家、加藤文太郎をモデルにした新田次郎の小説『孤高の人』には、文太郎が冬の氷ノ山から浜坂方面に向かう際に、夜間の吹雪に視界を奪われ立ち往生しながら地図とコンパスで一歩一歩前進する様が描写されています。また、同じく新田の『富士山頂』では高山病や悪天候と戦いながら富士山測候所に台風観測のための巨大レーダーを建設する人々の姿が描かれ、後に映画化されました。両作品とも、極限状態の中で必要な情報を得るために多大な努力をしていたことを紹介し、感動を呼びました。

現代ではどうでしょう、山中で視界が奪われてもGPSによって苦もなく自分の位置がわかります。それどころか他の技術と融合することで、道案内まで可能です。台風の位置や規模も、レーダーに頼らず宇宙から撮影した雲画像で、誰もがリアルタイムで知ることができます。

GPS、雲画像、BS・CS放送、これらはすべてGPS衛星、気象衛星、放送衛星など人工衛星の力を借りて実現しました。人工衛星が暮らしを大きく変えてきたことに驚きます。そう考えると人工衛星は私たちの日常の中にあるということもできそうです。今回の企画展は、私たちの生活と宇宙を結びつけながら、宇宙技術の変遷を紹介することで私たちと宇宙をさらに近づけることを目的に開催します。



陸域観測技術衛星「だいち」(© JAXA)



HIIAロケット(© JAXA)

ゾーン1「宇宙に挑戦する」では、1955年に発射された「ペンシルロケット」と1970年に打ち上げられた日本初の人工衛星「おおすみ」をメインに展示します。それらにより日本の宇宙開発の足跡をたどり、現在運用中のロケットの大スケール模型も展示し、さらに将来に向けた開発状況を紹介いたします。糸川英夫博士らの水平発射で有名なペンシルロケットは、実際に実験場で打ち出すために製作された実機を展示します。

ゾーン2「宇宙で活動する」では、国際宇宙ステーション (ISS) における宇宙飛行士の仕事や生活を通して、地球と大きく異なる宇宙環境の特徴やその利用技術について紹介します。ISSには6月頃から約半年間、大西卓哉宇宙飛行士が滞在する予定です。関連して、「きぼう日本実験棟」の模型や宇宙服、宇宙食なども展示します。

ゾーン3「宇宙を利用する」では、人工衛星が私たちの生活にどのように役立っているかを紹介します。人工衛星は目的や用途に応じてさまざまです。それらをパネルで紹介するとともに、人工衛星そのものだけでなく、宇



ペンシルロケット実機 (個人蔵)



宇宙服(© JSF)

宙から得られた大型画像なども展示します。

そのほか、来館されたみなさまと宇宙との距離が縮まるよう映像・体験コーナーを設けるほか、ワークショップ、コンサートも開催します。初日のコンサートでは、合唱曲『COSMOS』『地球星歌』など、全国の小中学校で広く歌われている楽曲の作者で知られ、日本各地の天文台やプラネタリウムなどでコンサートを行っている「アクアマリン」がやってきます。この夏の企画展をどうぞお楽しみに。

(学芸課 清末 幸久)

音楽ユニット「アクアマリン」



日本におけるキュビズム —ピカソ・インパクト

キュビズムは20世紀の初めにフランスで成立した美術運動です。代表的な作家としてはピカソとブラックが知られており、対象をファセットと呼ばれる切り子状の平面に分割して画面の中で再統合する技法は、それ以後の美術の展開に決定的な影響を与えました。

キュビズムは比較的早い時期に日本に導入され、大正期の新興美術において注目を浴びました。萬鐵五郎や坂田一男の作品をとおしてヨーロッパの前衛芸術は日本の美術界にも独自に受容されましたが、フォーヴィスムや表現主義と比べて、その影響は限定的であったように感じられます。このためこれまで日本においてキュビズムの受容という問題は十分に検証されることがありませんでした。

しかしながら日本の近現代美術を振り返る時、キュビズムは意外なかたちでリヴァイバルを果たします。すなわち、1950年代前半、ピカソの圧倒的な影響力のもとに洋画のみならず日本画、彫刻、工芸といった多岐にわたるジャンルでキュビズム的な構造をもった作品が制作されたのです。

このたびの展覧会では、日本においてキュビズムは二度にわたって作家たちに大きな影響を与えたという仮説に基づき、キュビズムの起源とも呼ぶべきピカソの作品と、その影響のもとに国内で制作された多くの作品を紹介します。当館を含めて三つの美術館の共同研究の成果であるこの展覧会は、従来のキュビズム観に新たな視点を切り開き、前田寛治や辻晉堂といった県立

博物館でもおなじみの作家に新しい光を当てることでしよう。

(美術振興課 尾崎 信一郎 おきき しんいちろう)



辻晉堂《顔(寒拾)》1956年 陶彫 鳥取県立博物館蔵

シリーズ「学校と博物館をつなぐ」⑥

県内学校の博物館利用状況 (平成26年度)

鳥取県立博物館では、より多くの先生方に博物館を利用していただきたいとの考えから、「教員のための博物館の日」など、学校団体の館内外での積極的な利用を推進しています。シリーズ第6回目は、博物館の学校を対象とした利用状況(平成26年度)について報告します。

1 来館利用 (図参照)

博物館に直接来館される場合の利用方法には、展示解説・館内授業があります。2つのグラフから、東部地区小学校の利用が多いことがわかります。これは小学校中学年の社会科で学ぶ「昔の人の暮らし」に関連して、

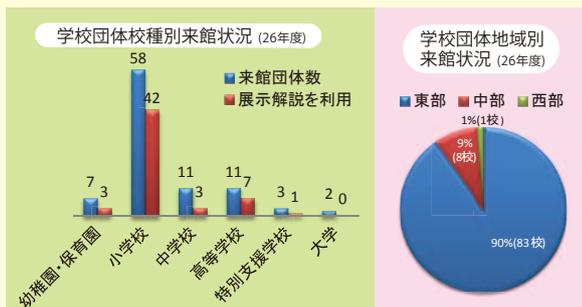
館内にある復元民家での解説等の利用が多いためです。また、平成26年度に初開催した「教員のための博物館の日」では、職員研修として県内の59名の教職員・学校関係者の方が参加されました。

2 館外利用

館外(学校や地域)利用については、校種を問わずご利用いただいています。学芸員が学校で博物館の資料や教材を使って授業をしたり、フィールドワークの講師を勤めます。先生方が博物館の資料を使って授業を実施することもできます。また、地区教育研究会や校内研修での指導助言、学年行事・PTA活動での題材の提供のほか、空き教室を利用した移動博物館なども開催しています。

今回は、学校教育の様々なシーンで博物館を利用いただいていることをお伝えしました。博物館は先生方とつながってもっとお手伝いしたいと考えています。何かありましたらお気軽にお電話・ご相談ください。

(学芸課 田中 博昭 たなか ひろあき)



鳥取県立博物館 普及担当：0857(26)8044

歯は語る：哺乳類の頭骨標本

博物館には、様々な動物の頭骨標本が収蔵されています。これらは展示や研究用の資料としてだけでなく、学校用の教材としても貸し出しています。頭骨標本からは様々なことが学べますが、今回は「歯」についてみてみましょう。

食べる歯

生物学の教科書でも紹介されるように、肉食動物と草食動物では歯の形が大きく違います。肉食動物は大きな犬歯(キバ)とナイフのような鋭い臼歯(奥歯)が特徴で、草食動物では平たい切歯(前歯)と幅広い臼歯が特徴です(図1)。前者は獲物をしとめ、肉を切り裂いて食べるのに適しており、後者は草をかみちぎり、すりつぶして食べるのに適した形です。

その他の特徴的な例としてはモグラの仲間がいます。彼らはそのおとなしい顔つきとは裏腹に、ギザギザした恐ろしげな歯をしています(図2)。彼らはおもに昆虫やミミズを食べるのですが、この歯はこういった小動物をとらえ、その丈夫な外骨格を突き破るのに適した形なのです。



図1 マレーヤマネコ(左)とニホンジカの頭骨
図2 ミズラモグラの頭骨

闘う歯

大きな犬歯は、肉食動物が獲物を狩るためだけのものではなく、他にも機能をもっています。小型のシカの仲間であるキョンの雄には、立派な犬歯があります(図3)。キョンは植物食なので、この歯は獲物をしとめるためのものではありません。これは、ニホンジカの角などと同様、雄同士で闘ったり、外敵から身を守ったりするのに使われます。

サルの仲間であるアヌビスヒヒ(雑食)も同様に、雄の犬歯が大きく発達します(図4)が、彼らの歯には、さらなる秘密があります。下顎の犬歯のすぐ後ろにある小白歯が、斜めに伸びた特殊な形をしているのです(矢印)。この歯は、上下の顎をかみ合わせた時に、ちょうど上顎の犬歯があたる位置にあります。じつはこの特別な歯があたることによって、犬歯は常に鋭く“研がれた”状態になるのです。鋭い犬歯は、実際の闘いはもちろん、敵を威嚇する際にも、大きな効果を発揮するでしょう。



図3 キョン(雄)の頭骨
図4 アヌビスヒヒ(雄)の頭骨
矢印は特殊な小白歯を示す

進化を語る歯

図5, 6の頭骨を見てください。平たい切歯、幅広い臼歯、そして切歯と臼歯の間が広くあいていることなど、お互いによく似ています。しかしこれらの頭骨、上はシマウマ、下はアカクビワラビーというまったく別の動物のものでした。

ワラビーはカンガルーやコアラなどと同じ有袋類で、シマウマやヒトを含む有胎盤類とは大きく系統が異なります。にもかかわらず、草原で草を食べるといふ、同様の状況で進化した結果、両者は似たような形状になったのです。これは、進化学における「収斂」と呼ばれる現象を説明する好例のひとつです。



図5 シマウマの頭骨
図6 アカクビワラビーの頭骨
※頭骨は一部切断されている

このように、頭骨標本は動物の生態や進化など、様々なことを学べる強力なツールです。また比較的頑丈なものが多いので、直接手に取って観察したり、感触を確かめたりすることも可能です。学校教育等での利用を希望される場合は、お気軽にご相談ください。

(学芸課 一澤 圭)

データベース「鳥取県の定点写真」

鳥取県立博物館では、昭和43年から5年ごとに各市町村教育委員会と共同で県内の地上定点写真と航空定点写真の撮影を行ってきました。このたび、その成果を紹介するため、「鳥取県の定点写真」のデータベースを、当館ホームページを通じて公開しました。

利用方法は、鳥取県立博物館ホームページの右隅にある「収蔵資料・刊行物」を選び「データベース」「収集資料データベース」「歴史・民俗」「鳥取県の定点写真」と選んでいくと、右上のトップ画面が表示されます。

トップ画面上で航空定点写真（左）か地上定点写真（右）かを選びます。地上定点写真を選んだ場合、次に「地図でさがす」か「条件でさがす」の表示が出ます。「地図でさがす」を選ぶ

と、県内を旧市町村ごとに区切った地図が出ますので、その中から見たい所を選択してください（一部見られない地域があります）。「条件でさがす」では、撮影年度、キーワードなどで見たい所を探せます。キーワード検索で「鳥取駅前」と入れると、45年間に撮影した10枚の該当の写真が表示されます（検索例1は、昭和43年）。同じように検索例2は「倉吉駅」と入れ、昭和43年を選びました。

これらの写真には、今ではすっかり変わってしまった風景も写っています。その意味で同一地点の写真は大変貴重な資料です。県内の風景の移り変わりを写真で見てもみませんか。

（学芸課 千葉 さをり）

データベースのトップ画面



鳥取駅前
検索例1
昭和43年(1968)



上井駅(現倉吉駅)
検索例2
昭和43年(1968)



資料紹介

銅剣に描かれた「サメ」

今回ご紹介する銅剣は、青谷上寺地遺跡などの弥生時代絵画資料とあわせて、歴史・民俗展示室で展示しています（特別展示「銅剣に描かれたサメ？」5月8日(日)まで）。特別展示終了後は、銅剣のみ引き続き展示します。

「サメ」といえば、鳥取県民には「因幡の白ウサギ」の説話で馴染み深い動物ですが、実は鳥取県の弥生時代遺跡でもサメと考えられる絵を描いた様々な遺物が見つかっています。歴史的にも古くから「サメ」が人々の暮らしの中で認識されていたようです。

先頃、当館所蔵の弥生時代中期（紀元前2世紀頃）の銅剣に、サメと考えられる絵が線刻されていたという新発見がありました。製作された後の銅剣に絵を線刻した例としては全国初の発見で注目されています。

銅剣とは、弥生時代に見られる銅鐸、銅矛、銅鏡などの青銅器の一つで、九州や中四国地方を中心に見つかるとともにマツリの道具として使われたと考えられています。時期や地域で様々な型

がありますが、このサメが描かれた銅剣は両側にトゲ状の突起がついており、あまり類例のない珍しいものです。

弥生時代には、青銅器だけでなく土器、木製品など様々な物に、人物、動物、建物といった多様なモチーフが描かれます。そのような中で、サメをモチーフにした絵は鳥取県を中心とした日本海沿岸地域にしか存在せず、特に鳥取市青谷上寺地遺跡で多く見つかっています。

これらのことから、弥生時代の鳥取県では地域色の強い、青銅器のマツリが行われていたと言えそうです。また、この銅剣は出土地不明で由来の分からないものでしたが、弥生時代の鳥取県とゆかりの深いことが分かりました。

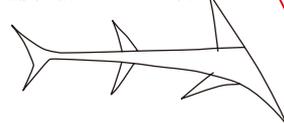
この度の発見で歴史的意義を取り戻

すこととなった銅剣が、以前よりも輝いて見えるのは私だけでしょうか。みなさんも、ぜひ話題の銅剣を見にご来館ください。

（学芸課 酒井 雅代）



▼銅剣に描かれたサメの図



銅剣 鳥取県立博物館蔵
（奈良文化財研究所撮影）



展示室で鑑賞授業

平成27年11月19日、当館美術常設展示室で、館蔵作品2点を比較して語り合う「対話による鑑賞授業」が行われました。この授業のために、東部中学校教育研究会美術部会の先生方が選んだ展示会のテーマは「風」。「本物の作品を鑑賞させたい。」との要望をきっかけに、「鑑賞担当の先生方と学芸員との連携企画として展示会をつくり、そこで授業をされてはどうか。」と提案させていただいたものです。

「この展示会のチラシに載せる作品を一点選ぶとしたら、あなたはどちらを選びますか。」という問いで始まるこの授業は、こくねいじやう國領経郎の作品2点の中からより「風」を感じる1点を選択し、



國領経郎《海風に撓む》1995年 カンヴァス・油彩



授業風景

その根拠となる発見や絵に抱いたイメージについて意見交換するものでした。作品の一つは《海風に撓む》。手前に広がる砂丘と2本の木々。木の向こうには小さな人影が見えます。この絵に強い風を感じるのはなぜでしょうか。もう一つは《杜を映す溜水》。二羽の鳥が溜水の上を越えて杜に向かっています。水面は水鏡となり空と杜を映します。ここに風は吹いているのでしょうか。作家はそれぞれの作中で、目に見えない風をどのように表現して

いるのでしょうか。

幅や高さが2メートル近くある大きな絵と対峙しそれぞれの「風」を見つけた生徒たちは、時には考えの異なる友達を作品の前に連れて行き、ガラスに額をつけるようにして言葉を続けていました。それは生徒同士の対話であると同時に、本物の作品の持つ強さと、それを見つめる生徒の鋭い感性との響き合いのようでもありました。

(美術振興課 佐藤 真菜)

当館所蔵の作品を授業にご活用ください。活用についてのご相談もお受けしています。作品の画像は当館ホームページにてご覧いただけます。(HP→収蔵資料・刊行物→データベース→収集資料データベース→美術)

県立美術館整備に向けて

本紙の前号で平成26年度に行われた博物館の在り方に関する検討とその結果についてお知らせしました。それを受けて今年度進められている県立美術館整備に向けての取り組みについて報告いたします。

新しい県立美術館の構想について協議する「鳥取県美術館整備基本構想検討委員会」は昨年7月29日に最初の会合を開き、これまでの経緯と今後の進め方について事務局から説明を行いました。9月8日の第二回の会合では新しい美術館の基本コンセプトと必要な機能について、事務局から原案を提示しました。これは半年近くにわたって続けた日本の主要な美術館や先進館の関係者からの聞き取りに基づいて、事務局がとりまとめた新しい美術館に

関するドリームプランです。この案を念頭に9月から10月にかけて、委員の皆さんとともに東北、北陸、九州方面、10館余りの美術館の視察見学を行いました。11月2日の三回目の会合ではコンセプトと機能について議論をとりまとめるとともに、施設の設備と規模、立地条件について事務局案を提案いたしました。1月29日の四回目の会合でこれらが大筋で承認されたことを受けて、現在、立地条件に合う候補地を各市町村に照会しているところです。

委員会の進行に合わせて事務局は11月より県内各地で新しい美術館に関する出前説明会を開催しています。現在までに約20回を数える説明会は、私たちが目指している美術館の姿を多くの県民の方に知っていただくとともに質



出前説明会の様子(1月13日)

問に答える対話形式をとっています。

実際の美術館建設までは、まだしばらく時間がかかりますが、拙速を避け、県民の皆さんや専門家の方々の御意見を聞きながら、引き続き美術館整備についての検討を続けていきたいと考えています。(2月6日記)

(美術振興課 尾崎 信一郎)

教員の方で、学校教育への活用のための見学をご希望の方はご相談ください。

★申込み・問合せ：学芸課 (0857-26-8044)・美術振興課 (0857-26-8045)

自然部門 歴史・民俗部門 美術部門(毎週土曜はアートの日!)
 幼児(親子)参加OK 申込受付

イベント案内:前期(4~9月)

2016 4 APR.	《ギャラリートーク》 「昭和の洋画を切り拓いた若き情熱」展	■4月2日(土)14:00~15:00/展示室 ■高校生~一般/定員なし/観覧料
	《歴史講座》 湖山池をとりまく中世墓の世界	■4月9日(土)10:00~12:00/会議室 ■一般/20名/無料 ※鳥取地域史研究会との共催
	《ギャラリートーク》 テーマ展示Ⅰ	■4月9日(土)14:00~15:00/展示室 ■高校生~一般/定員なし/観覧料
	《アートセミナー》 前田寛治と一九三〇年協会	■4月16日(土)14:00~15:30/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
2016 5 MAY.	《特別講演会》 前田寛治の生きた時代 講師：木本文平(碧南市藤井達吉現代美術館長)	■4月23日(土)14:00~15:30/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《ギャラリートーク》 学芸員総出!わいわいギャラリートーク	■4月30日(土)10:00~11:00@15:00~16:00/展示室 ■小学生~一般/定員なし/観覧料
	《ワークショップ》 落書きばんざい!	■5月7日(土)10:00~15:00/玄関前 ■幼児~一般/定員なし/無料
	《ギャラリートーク》 学芸員総出!わいわいギャラリートーク	■5月14日(土)14:00~15:00/展示室 ■小学生~一般/定員なし/観覧料
	《天体観望会》 春の星を見る会	■5月14日(土)予備日:15日(日)18:30~20:30/前庭 ■幼児~一般/定員なし/無料
	《ギャラリートーク》 「昭和の洋画を切り拓いた若き情熱」展	■5月21日(土)14:00~15:00/展示室 ■高校生~一般/定員なし/観覧料
	《講演会》 山陰の青銅器のまつり-銅剣に描かれたサム- 講師:難波洋三(奈良文化財研究所 客員研究員)	■5月22日(日)14:00~15:30/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《ワークショップ》 泥でアート!	■5月28日(土)/会議室他 ■幼児~一般/無料 ☎5月13日(金)~、電話のみ
	《アートシアター》 日曜美術館 北斎と広重 同時代を生きた天才たち	■6月4日(土)14:00~15:00/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《歴史講座》 禅僧の漢詩文集における中世因伯関係史料	■6月11日(土)10:00~12:00/会議室 ■一般/20名/無料 ※鳥取地域史研究会との共催
2016 6 JUN.	《スペシャルアートシアター》 創造と神秘のサグラダファミリア	■6月11日(土)14:00~15:40/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《野外観察会》 親子で楽しむ「虫とり」レース	■6月12日(日)10:00~12:00/とっとり出合いの森(鳥取市) ■幼児~一般/30名(先着順)/無料 ☎5月26日(木)~、電話のみ
	《アートシアター》 東京のモダニズム建築	■6月18日(土)14:00~14:50/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《講演会》 鳥取藩の大庄屋日記を読む	■6月19日(日)14:00~15:30/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《スペシャルアートシアター》 もしも建物がはなせたら	■6月25日(土)14:00~16:50/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《講演会》 鳥取県の民間信仰(仮)	■6月26日(日)13:00~16:00/講堂 ■高校生~一般/無料
	《ギャラリートーク》 コレクション展Ⅱ	■7月2日(土)14:00~15:00/展示室 ■高校生~一般/定員なし/観覧料
	《歴史講座》 近世伯州木綿の流通	■7月9日(土)10:00~12:00/会議室 ■一般/20名/無料 ※鳥取地域史研究会との共催
	《ワークショップ》 カメラを持ってまち歩きin淀江	■7月9日(土)13:00~16:00/米子市淀江町 ■小学生~一般(小3以下は保護者同伴)/20名(先着順) ☎6月24日(金)~、電話のみ
	《スペシャルワークショップ》 テーマ展示Ⅱ関連	■7月16日(土)/展示室・会議室 ■幼児~一般/無料 ☎7月1日(金)~、電話のみ
2016 7 JUL.	《ワークショップ》 かさ袋口ケットをつくろう	■7月23日(土)10:00~11:30/会議室 ■幼児~小学生/10組/無料 ☎6月30日(木)~、電話のみ

2016 7 JUL.	《ギャラリートーク》 テーマ展示Ⅱ	■7月23日(土)14:00~15:00/展示室 ■小学生~一般/定員なし/観覧料
	《見学会》 神社の石造物を調べよう	■7月23日(土)14:00~15:30/立川稲荷神社(鳥取) ■中学生・高校生/10名(先着順)/無料 ☎7月9日(土)~、電話のみ
	《コンサート》 星空のうたコンサート	■7月23日(土)14:00~15:30/講堂 ■幼児~一般/250名/無料 出演：アクアマリン
	《歴史講座》 和綴製本でオリジナルノートを作ろう	■7月24日(日)14:00~15:30/会議室 ■小学4~6年生とその保護者/20名/無料 ☎6月28日(火)~、電話のみ
2016 8 AUG.	《自然講座》 自作天体望遠鏡で星を見よう!	■7月30日(土)観測予備日:31日(日) 製作:14:00~16:00観測:19:00~21:00/会議室・前庭 ■小・中学生/5組(先着順)/キット代金 ☎7月7日(木)~、電話のみ
	《ワークショップ》 トンカチ、トントン!	■7月30日(土)14:00~16:00 ■小学生~一般/無料
	《天体観望会》 夏の星を見る会	■7月30日(土)予備日:31日(日)19:00~21:00/前庭 ■幼児~一般/定員なし/無料
	《野外観察会》 川原の石をしらべよう!	■7月31日(日)10:00~15:00/用瀬中央公民館・千代川川原 ■小学生~一般/30名(先着順)/無料 ☎7月14日(木)~、電話のみ
	《ワークショップ》 素材まつりだ、なにつくる?	■8月6日(土)13:00~16:00/会議室他 ■幼児~一般/無料
	《特別講演会》 夢から現実へ~人工的に流れ星をつくる~(仮) 講師：岡島礼奈(株式会社ALE)	■8月6日(土)14:00~15:30/講堂 ■小学生~一般/無料
	《自然講座》 顕微鏡で楽しむミクロの世界	■8月7日(日)10:00~12:00@14:00~16:00/会議室 ■小学生~一般/各15名(先着順)/無料 ☎7月21日(木)~、電話のみ
	《特別講演会》 内容未定	■8月11日(木・祝)14:00~16:00/講堂 ■小学生~一般/250名/無料
	《歴史講座》 安政~元治期の因州鳥取藩と大坂両替商	■8月13日(土)10:00~12:00/会議室 ■一般/20名/無料 ※鳥取地域史研究会との共催
	《スペシャルアートシアター》 チェコアニメ「アマルカとクルテク」	■8月13日(土)14:00~15:30/講堂 ■幼児~一般/250名/無料
2016 9 SEP.	《自然講座》 夏休みの標本しらべ相談室	■8月14日(日)10:00~17:00/会議室 ■小・中学生・高校生/定員なし/無料
	《自然・美術 コラボワークショップ》 「宇宙への挑戦」関連	■8月20日(土)/展示室・会議室 ■幼児~一般/無料 ☎8月5日(金)~
	《ワークショップ》 コズミックカレッジ~宇宙工作~	■8月21日(日)13:00~16:30/会議室 ■小・中学生/20名(先着順)/無料 ☎8月4日(木)~、電話のみ
	《民俗講座》 鳥取県の民話を聞く会	■8月21日(日)14:00~15:00/ 歴史・民俗展示室復元民家コーナー ■小学生~一般/約40名/常設展示入館料
	《アートシアター》 ウィリアム・ケントリッジの謎	■8月27日(土)14:00~15:00/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《スペシャルアートシアター》 あえかなる部屋 内藤礼と光たち	■9月3日(土)14:00~15:30/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《歴史講座》 鳥取藩の将軍献上儀礼(仮)	■9月10日(土)10:00~12:00/会議室 ■一般/20名/無料 ※鳥取地域史研究会との共催
	《スペシャルトークセッション》	■9月10日(土)14:00~15:30/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《ワークショップ》 粘土で落書き	■9月17日(土)10:00~15:00/博物館前庭 ■幼児~一般/定員なし/無料
	《アートセミナー》	■9月24日(土)14:00~15:30/会議室 ■高校生~一般/40名/無料
《歴史講座》 武将のサイン「花押」を作ろう	■9月25日(日)14:00~15:30/会議室 ■小学4~6年生とその保護者/20名/無料 ☎9月6日(火)~、電話のみ	

美術部門の詳細については、「毎週土曜はアートの日!」のリーフレットをご参照ください。

※特に記載のないものは申込不要です。※講座によっては材料費などが必要な場合があります。詳しくはホームページなどでご確認ください。※小学生以下は保護者同伴でご参加ください。
 ※託児サービス・手話通訳・要約筆記にも対応いたします。希望される場合は3週間前までにご連絡ください。

鳥取県立博物館ニュース No.21

平成28年(2016年)3月23日発行
 編集・発行 鳥取県立博物館
 住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地
 TEL 0857(26)8042(代)
 FAX 0857(26)8041
 URL <http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>
 E-mail hakubutsukan@pref.tottori.jp

■入館料:常設展/一般180(150)円
 ()内は20名様以上の団体料金
 ■開館時間:9時~17時(入館は16時30分まで)
 19時(入館は18時30分)まで開館する場合あり。詳細はお問い合わせください。
 ■休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌平日が休館日)
 国民の祝日の翌日(土、日、祝日の場合を除く)
 年末年始(12月29日~1月3日)
 ※具体的な休館日等は、ホームページでご確認ください。



お客様の満足の為のサービスへ...
MORRIX
 株式会社モリックスジャパン
 TEL 0857-23-3641
 本社 鳥取市南栄町203-6
 倉庫店 倉吉市下町中870 中瀬ビル3F
<http://www.morrix.co.jp/>

引越は日通
 フリーダイヤル ひっこしは日通
 0120-154022

- JR鳥取駅からバスで
- ④100円バス「くるまの緑」線コース「①仁風園・県立博物館」下車すぐ
- ②ループ線「②鳥取城跡」下車すぐ
- ③砂丘・湖山・智識方面行「西町」下車、約400m
- ④市内回り岩倉・中河原方面行「わらべ館前」下車、約600m
- JR鳥取駅からタクシーで、約10分
- 鳥取砂丘コナン空港から...鳥取銀行連絡バス「西町」下車、約400m
- お車で...鳥取自動車道・鳥取より約15分
- ※当館駐車場21台駐車可能。満車の場合は県庁北側駐車場無料へ